

あおぞらつぐみ通信

発行日：令和8年7月31日

○第106号○

社会福祉法人あおぞらつぐみ福祉会
○あおぞらつぐみの家
東大阪市加納 5-12-25
☎072-872-9211
○ほたる
東大阪市日下町 7-3-57
☎072-981-5200
発行責任者 橋之爪 栄



あおぞらつぐみの家：7月といえば七夕！

ほたる：転がるボールを相手チームのゴール(箱)にシュート！！

◆ も く じ ◆

- ・ 令和7年度会計報告 2 P
- ・ あおぞらつぐみの家床上浸水 3 P
- ・ 事業所の取り組み 4 P
- ・ あおぞらホーム（避難訓練／空床ショート開始） 5 P
- ・ 後援会だより20号 6～7 P

あおぞらつぐみ福祉会 令和7年度 決算報告

資金収支計算書	
令和7年4月1日～令和8年3月31日 (単位：円)	
勘定科目	金額
事業活動収入	158,427,601
事業活動支出	126,669,491
事業活動資金収支差額	31,758,110
施設整備等収入	0
施設整備等支出	15,084,048
施設整備等資金収支差額	-15,084,048
その他の活動収入	18,993,394
その他の活動支出	31,631,123
その他の活動資金収支差額	-12,637,729
当期資金収支差額合計	4,036,333

事業活動計算書	
令和7年4月1日～令和8年3月31日 (単位：円)	
勘定科目	金額
サービス活動収益	157,160,124
サービス活動費用	132,005,096
サービス活動増減差額	25,155,028
サービス活動外収益	1,528,353
サービス活動外費用	231,664
サービス活動外増減差額	1,296,689
特別収益	993,397
特別費用	1,011,159
特別増減差額	-17,762
当期活動増減差額合計	26,433,955

貸借対照表			
令和8年3月31日現在（単位：円）			
資産の部		負債の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	35,462,326	流動負債	12,299,567
		固定負債	51,463,680
		負債合計	63,763,247
		純資産の部	
固定資産	350,320,698	基本金	94,320,000
		国庫補助金等特別積立金	115,927,501
		次期繰越活動増減差額	81,772,276
		純資産合計	322,019,777
資産合計	385,783,024	負債・純資産合計	385,783,024

あおぎつてんどの家 未曽有の床上浸水!!

6月26日(金)に発生した台風により、あおぎつてんどの家では、床上3cmの浸水に見舞われました。



地下倉庫に1メートルの水がたまり、大量の備品や古い書類が水浸しに。1階の床暖房もエレベーターも使用できない状況となりました。事務用パソコンのダメージも大きく、事務仕事に支障をきたしています。被害の原因は施設前の水路に流れ着いたゴミが溜ま

り、水が道路にあふれ出したことによると思われます。この状況の中、多方面の方から暖かいお声掛け、ご協力がいただけました。

即座に土嚢を用意して下さった福島建設さん、水中ポンプを貸し出してくださった火災報知器点検業者長谷川さん、豪雨の中をすぐに駆け付けて下さったPC業者のフレイムエイジさん、アメリカ自治会長さんからも暖かい協力の申し出、東大阪市施設連絡会からの早々のお見舞い、その他、「なにかできることはない?」のお声掛けもたくさんいただきました。改めて、色々な方に支えられてあおぎつてんどの家は存在しているのだと実感しました。



また、1階部分が締め切られて出入り禁止状態、エレベーターも使えない状況の中、1階で実践していた利用者さんたちが急遽2階シヨートの部屋に移動となった、昼食も作業室で頂くことになったりと、突然の大変化が起こりましたが、利用者の皆さんが大きな動揺を見せることなく、元気に過ごしておられたことに、何よりも勇気づけられました。

これまで地震対策は整え

てきましたが水害は想定外でした。災害はいつどこからやってくるのか分からない、と改めて思い知らされた次第です。

それにしても、世界規模で起こっているこの異常気象は何なのでしょう。法人を守りつつ、地球を守るという大きな視点も必要だと考えさせられました。

(橋之爪)



あおぞらつぐみの家

豪雨ニモ負ケズ

土曜開所でのレクがマンネリに陥らないようにとゲームを増やしました。みんな大好きな転がし卓球では、マイラケットを作り、卓球大会と2回シリーズで取り組みました。さあ、ドンドンと進んで行こう！と思っていた時、豪雨がやって来ました。エレベーターは壊れ、1階の食堂も作業室も使えなくなっていました。

ショートの部屋を使っての作業、担架で担がれての2階への移動、作業室での食事、2階での全体レク：しかし、仲間たちは取り乱すことなく作業に取り組み、昼食を食べ、七夕祭りを楽しめ、1階が使えるようになるまでの2週間を見事に乗り切ってくれました。



願いを込めて…

豪雨の朝、送迎担当の職員は道路の冠水が一番酷い時間帯と出勤時間が重なりましたが、自分の責務を果たそうと、膝まで水に浸かりながらも出勤し、その後は出勤ができた職員と一緒に避難指示の出る中、復旧作業に取り組みました。日頃からお世話になっている業者の方々も午前中から次々と駆けつけて下さり、復旧に力をお貸しくださいました。そして、休日にはご家族にも復旧作業を手伝って頂きました。

思い返すと「ありがとうございます」の言葉しか頭に浮かびません。復旧にはまだまだ終わりは見えず、

ほたる

まさに熱闘！

仲間にも不便をかけていますが「生まれ変わったピカピカのおおつぐ」になれるよう、実践も、復旧も力を合わせて取り組んで参ります。

(山田)

毎週金曜の午後からのレクは、クッキングが多かったのですが、最近は何も動かすレクも積極的に行うようになってきております。

ベンチサッカーでは、相手ゴールに向かってに利用者さん同士で協力し合い、白熱したゲームが繰り広げられました。

スポーツチャンバラでは、線を引いてこれ以上は前に行かない等のルールを作り、トーナメント方式で行いました。最初は戸惑われる場



ベンチサッカー

面も見られましたが、徐々にルールを理解してこられ、最終的には「いけ！がんばれ！」と、利用者さん同士で声援を送り合うなど、こちらもなかなか白熱した取り組みとなりました。

七夕ではそれぞれの願いを短冊に込めて書き、笹に皆で飾り付けをしました。毎年恒例の行事であり、見通しを持って楽しみました。今後もいろいろなレクを紹介していけたらと思っています。

(浦本)

あおぞらホーム

避難訓練

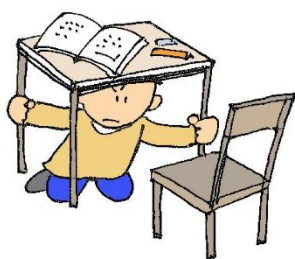
6月24日にあおぞらホームで初めての避難訓練が行われました。この日は体験入所のメンバーがお二人、ほたるを早抜けして参加。職員は5人集まり、火の手が上がる絵を振りかざして避難を呼びかけ、みなで外まで避難しました。



その後は消防署からお借りした「地震だ、その時どうする」のビデオを見ました。怖くて涙目になったOさん



を、Nさんが優しく抱きしめて、Oさんは安心顔にもどりました。火災報知器もあって、消防署に繋がっているの、先ずは安心なホームではありますが、訓練は大事。
来年はぜひとも地域の皆さんと一緒に訓練をしたいものです。



空床ショート開始

7月からあおぞらホームで、空床ショートステイが利用できるようになりました。

あおぞらホームは昨年2月からスタートしましたが、未だ入所が1名しか決まっておらず、残り3室に体験利用希望の方が順番に泊まっておられます。体験を繰り返しながら、利用者さんにはぜひともひとり立ちの自信を少しずつ、ふくらませて欲しいですし、仲間たちと暮らす楽しさも味わってほしいと思います。また、ご家族も、体験入所が、子供さんの成長を感じていただけるいい機会になってくれればと願っています。

とはいえ、空き部屋をそのままにしておくのはとてももったいないので、ショートに活用していきます。これまで、職員の不足からなかなかショート利用日数を増やせなかったのですが、ホームを活用することで女性性はホームの空き部屋で、男性はあおぞらつぐみの家のショートで、少しずつ機会を増やすことができます。

今後いろいろな形で、利用者さん家族さんの要求に応えられるようにしていきたいと思っています。



後援会総会を開きました

令和8年度の後援会総会が6月13日に開催されました。

令和7年度も地域の祭り等に積極的に参加し、法人に100万円の寄付をすることができました。今年の総会の目玉は2部の「あおぞらつぐみの歴史を知り、未来を語ろう」でした。施設に長く在籍して下さり、年を重ねる中で、苦渋の決断をされ入所施設に移籍していかれた利用者さんたちがおられます。そのご家族は、まさにあおぞらつぐみの家を建てるために奔走し、力を尽くしてくださいました。今回は同窓会しながら、多くのOB、OGのご家族さんが顔を揃えてくださいました。そして、お一人お一人があおぞ

らつぐみの家の思い出を語ってくださいました。聞き手となった若いご家族、職員にとっては、とても重く同時にとても暖かい励ましの言葉の数々であったと思います。とりわけ、病を押しながら足を運んで下さり、次世代家族への熱い思いを語られた植村さん。「皆に私の言葉を伝えてほしい」との思いを受けて、すべてではありませんが一部抜粋し、ここに載せさせていただきます。



令和8年6月末に更新を頂いた方のご芳名です
ありがとうございました

※順不同

岡 喬子	丹生 眞美子
木村 実	矢野 富子
石田 義博	中村 美枝子
佐々木 博子	岡本 一江子
太田 清孝	松尾 里子
生田 勉	山田 紀子
美濃 暁彦	溝畑喜代子
澤田 義雄	屋宜 静子
田中 成子	山川 恭子
浅山 登美子	西田裕一
前田 美佐子	秋田 理智
森田 正	秋田 美智代
山添 亮子	難波 利明
橋本 直樹	遠藤 清美
大田 眞理子	菱田 美智世
井本 知栄子	浦本 隆文
岡田 美千代	浦本 明子
長谷川 陽一	相坂 百合香
吹上 正世	山内 雅範
古山 哲夫	大塚 牧子
秋田 直人	村上 卓也
勝見 理可	豊田 真由美
西口 亮	長 明広
井駒 多津子	西谷 不三
風呂橋 益美	山中 弘美
長尾 ゆり	山内 悦美
花木 陽子	井上 ひとみ
中 浩二	井上悠歩
中 邦江	永田 節子
NPO法人TSUGUMI	
ユアライフ21	

植村 和子さんの言葉

おおぞら学級1年の時は親が交代で週に1, 2回バスの介助員をしていました。小學校3年の時に同級生の親4人で、高校を卒業したら行くところがないので無認可でもいいから作ろうと、相談しました。周りの親にも相談して、花やエプロンの販売、クッキーをふれあい祭りで売ったり・・・空き缶や新聞、段ボールを集めたり、毎月500円とか1000円とか皆でコツコツ資金を作った。おおぞら学級の後の場所を貸してもらえて助かりました・・・それからやっぱり無認可では職員の給料が安いので長く働いてもらえないということで（加納で活動しておられた）つくみさんの6人にも声をかけて合流することになりました。認可になるまでの5年間は毎月末に11人の夕食を作って7時から会議。終わるのは11時、12時は当たり前でした。子どもを車に乗せて、家についたら降ろして。60キ

ロの子どもを抱えてやったなあと自分でえらいと思います・・・認可されてから緊急シヨートを何としても欲しいと訴え続けてきました。やっとシヨートは出来たけど月1回だけ。そんなんではあかんと何回も言い合いになりました・・・山内（保護者会会長）さんがグループホームとか先のことも大事ではないかと。大きくするために、ほたるを建てました。

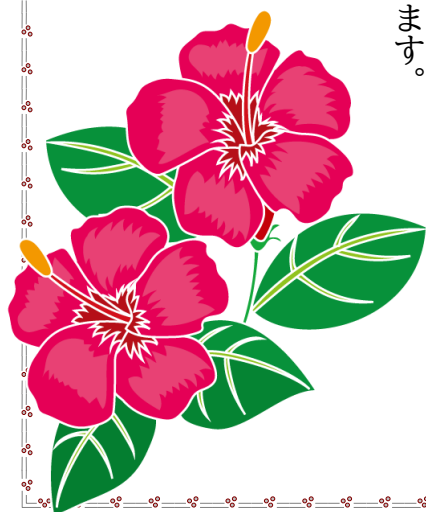
おおぞらの親も年を取ってきて体力に限界が来て、なごみ（入所施設）に行く子ども、退所する子がいたりして私も枚方（療育園）に申し込み5年間毎月通ってやっと入れてもらえました。

今の親は苦労してへんから分からのやと思うけど、保護者会は絶対に必要やと思います。親同士言い合いをしてもいいから何をせんとあかんのか、成年後見はどうしたらいいのかとか、一人では聞けないけど保護者会をしていたら聞けるのんと違うや

ろかと思う・・・それと、健康な時にGHに入れておかんと親はいつまでも若くないんですよ。

おおぞらの親とは今でも旅行に行って、裸の付き合いをしているのは子供が繋いでくれた縁だと思っています・・・障害があるから分かり合えることがある。皆さんもこれからの子どもの先を考えるときに情報のやり取りが要るとおもうのです。今親が何をしなければいけないのか考えて欲しいです。それと職員にもわかってほしい・・・何かの時に市や府に言いに行く時に保護者の役割は大きいですよ・・・

私も病気を克服して必ず元気になります。また呼んでください。皆さんに活を入れに来たいと思います。



生きたいと願った証(後半部分抜粋)

豊崎中学校2年

亀谷 琉奈

生きたい 死にたくない その想いだけで

曾祖母は必死に生き延びた

戦争は人を傷つける 体だけじゃない

心まで壊してしまう

家族と笑う時間 友達とすごす日々

「また明日ね」と言える幸せ

そんな当たり前を

全て奪ってしまう

でもそれは 当たり前なんじゃない

血と涙の中を生き抜いた人たちが

命を繋いでくれたから

今の私たちがいる

もし曾祖母が あの日

走っていなかったら

もし あの日

命を落としていたら

私はここにいなかった

曾祖母の右足の傷はただの傷じゃない

「生きたい」と強く願った証

「戦争は二度としてはいけない」

という叫び

私は その想いを これから先も伝えていく

もう誰にも 血だらけの道を

走ってほしくないから

もう誰にも 愛する人の命が奪われることに

怯えてほしくないから

もう二度と

沖縄の空を戦争で染めてはいけないから

平和は当たり前じゃない

たくさんの方の涙と苦しみと

「生きたい」という願いの上にある

だから私は忘れない

沖縄戦で苦しんだ人たちが

愛する人を守ろうとした想いを

泣きながら生き抜いた人たちが

そして 曾祖母の右足の傷を

「生きたい」と願った証の傷を

平和な未来へと繋いでいくために



2026年 沖縄全戦没者追悼式にて

「児童・生徒の平和メッセージ」として

亀谷琉奈さんが朗読しました。

支援スタッフ (パート・アルバイト) 募集

生活支援員
短期入所・グループホーム
キーパー

お問い合わせはコチラ↓

TEL: 072-872-9211

◎編集後記◎

私はこの職場に勤めて22年になるが、6月末の水害はその中で最大級の被害であった。障害者と言っても色んな人がいるが、一つ確実なのは…生きるのに絶対必要な医療物資が無い・移動手段が無くなる・いつものルーティンが崩される…等から、非常事には極めて弱いということだ。いつもの何気ない日常に感謝すると同時に、これから来るかもしれない災害に備えなければならないと思った。

編集担当 菱田